

2025 年度 第 1 回町田市産業振興計画推進委員会議事要旨

日時:2025 年 8 月 4 日(月曜日)14 時 00 分～16 時 00 分

場所:町田市庁舎 2-2 会議室

出席者:

大久保 英敏	委員 (委員長)	玉川大学 名誉教授
多田 和美	委員 (副委員長)	法政大学社会学部社会政策科学科 教授
佐藤 正志	委員	町田商工会議所 専務理事
滝口 進	委員	株式会社町田新産業創造センター 専務取締役
太細 貞治	委員	一般社団法人町田市経営診断協会 理事長
中野 浩司	委員	株式会社日本政策金融公庫 八王子支店長
小山 克己	委員	株式会社三和 顧問
杉森 俊彦	委員	小田急電鉄株式会社 まちづくり事業本部エリア事業創造部 課長
涌井 和志	委員	町田公共職業安定所 次長

欠席者:菅野 英昭 委員 多摩高度化事業協同組合 専務理事
長谷部 信樹 委員 株式会社 AGORA 代表取締役 CEO

傍聴者:なし

事務局:

町田市経済観光部長 塩澤 直崇
町田市経済観光部産業政策課課長 村上 和久
町田市経済観光部産業政策課担当係長 朽木 雄介
町田市経済観光部産業政策課担当係長 高橋 悠
町田市経済観光部産業政策課担当係長 佐藤 順一
町田市経済観光部産業政策課主任 黒川 広貴

次第

1 開会

2 報告

(1)2024年度 第 2 回委員会の議事要旨

3 議題

(1)「町田市産業振興計画19-28」後期実行計画の2024年度の取り組み結果について

(2)「町田市産業振興計画19-28」後期実行計画の2025年度の取り組み状況について

4 その他

配布資料

(資料1) 町田市産業振興計画推進委員会 委員名簿

- (資料2) 2024年度 第2回町田市産業振興計画推進委員会 議事要旨
- (資料3) 「町田市産業振興計画19-28」後期実行計画2024年度取り組み結果
- (資料4) 「町田市産業振興計画19-28」後期実行計画2025年度取り組み状況
- (資料5) 「町田市産業振興計画19-28」後期実行計画2024年度取り組み結果(概要)
- (資料6) 町田市産業の魅力や支援情報等の発信に関する取り組みについて

議事要旨

1 開会

2 報告

(1)2024年度 第2回委員会の議事要旨

3 議題

- (1)「町田市産業振興計画19-28」後期実行計画の2024年度の取り組み結果について
- (2)「町田市産業振興計画19-28」後期実行計画の2025年度の取り組み状況について

「立ち上げるチャレンジ」

■滝口委員

町田新産業創造センターにおける創業相談件数について、7月末時点の数字を昨年と比較すると、実人数、男女比ともに昨年と同程度。男女比は男性約60%、女性約40%で昨年と同じくらいの割合だが、それ以前と比較すると女性の割合が上がってきている。業種は人的サービス、物販、福祉などのサービス業が多い。また、毎月様々なセミナーを開催しているが、中でも副業に関するセミナーは申込者数が多く、副業への関心が高まっていることを実感している。

「LEVEL UP STAGE 2025」は、AGORA、多摩信用金庫、町田新産業創造センターの3者で開催するビジネスコンテストであり、2025年度で6回目となる。「LEVEL UP STAGE」の認知度向上や賞金、協賛企業が増えていることもあり、エントリー数は、昨年128件だったが今年は188件まで増えてきた。多摩地域以外の方の応募も増え、様々な事業者が参加することでアイデアのレベルも上がってきている。

また、マーケティング講座は、2025年度初めて実施する取り組みである。創業関連講座は、一般的に、講師から講義を受けて、事業計画を作り、ビジネスプランのプレゼンをする内容が多いが、本講座は「キラリ☆まちだ祭」と同日に、出店イベントとして「MARKET BASE MACHIDA」を開催し、受講者に出店していただき、実際のお客様に商品やサービスを提供することで、リアルな反応やニーズを体感し、改善点や魅力を再発見し、より強いビジネスへと育てていくことが狙いである。現在、16事業者から応募がきている。

■杉森委員

女性創業スクールの参加者の世代はどうか。

■滝口委員

女性の40代、50代が多い。子育てを終えて、自分のやりたいことをやるために参加されている方が多い印象を持っている。

■太細委員

創業した事業者の抱えている課題、要望等を掘り起こすために、発行された起業家カードを有効に使うことができるのではないかと感じている。

■滝口委員

起業家カードを発行した後の事業者の状況は把握できていない。どのように把握するかは今後の課題であると感じている。

■事務局

町田創業プロジェクトは産業競争力強化法に基づき実施しており、毎年度、国からフォローアップ調査依頼がある。町田創業プロジェクトに係る各種特典を受けるための証明書の発行を受けた事業者に対してメールで調査をしているが、メール返信率が低い。支援した後に事業者の状況をどのように把握していくかが課題である。

■中野委員

町田創業プロジェクトに係る各種特典のうち、「新規開業資金・スタートアップ支援資金」の貸付利率の引き下げ特例がある。担当地域の中では、町田市は利用件数が多いと感じている。

■大久保委員長

「LEVEL UP STAGE」が多摩地域の大学にも広がるように働きかけていただきたい。

■滝口委員

これから多摩地域の大学にも、協力を働きかけていきたい。

■大久保委員長

「LEVEL UP STAGE」は産学交流のチャンスである。大学教員と町田の企業の交流が生まれれば、学生と町田の企業との交流が生まれ、町田市内企業の求人につながる。

「拡げるチャレンジ」

■大久保委員長

トライアル発注認定商品について、企業間の交流が活発になれば、さらに様々な事業者を認定できるようになるのではと思う。

■多田委員

評価の△が増えてきている印象があるが、その分析、対応策等はあるか

■事務局

項番12、18、19の補助金については、申請増につながるよう周知PRに力を入れていく。

項番21、26のトライアル認定事業者に対するアドバイザー派遣については、利用ニーズが低いため、制度の見直しが必要であると考えている。

項番28の交流会の開催回数については、町田商工会議所が1年間を通じて計画的に開催する予定である。他の関係機関とも連携しながら、交流の機会を増やしていきたい。

■佐藤委員

項番16、カタログギフトについては、一昨年からスタートした。40事業者が参画し、1,000部作成した。町田観光コンベンション協会が販売し、完売した。660件は東京や神奈川の方が購入し、北海道や九州など様々な地域から注文を受けている。販売実績の63%が町田市外(全国26都道府県)の方に贈られた。今年度も本年11月から販売予定である。掲載商品数も前回より増やし、カタログギフトのオンライン販売も予定している。

項番23、「町田私の好きなお店大賞」については、2025年度はスタンプラリーイベントに切り替えて行う予定である。町田市内の商業の活性化、地域経済の発展を図ることを目的に2005年に始まった。当初の目的を達成したことから、今年度で終了する予定である。

項番27、交流会は、1年間を通じて計画的に開催する予定であるほか、昼や夜など参加しやすい時間帯で開催するなど、回数を増やして実施している。町田商工会議所を知ってもらう機会として、非会員向けにも行っている。

■太細委員

ビジネスアドバイザー派遣については、現状、トライアル認定事業者向けであり、利用希望者が少なくなっている。利用対象者の条件を広げた方が良いのではと思う。

■大久保委員長

トライアル認定の審査が厳しいのではないかと、前回菅野委員から指摘があった。審査を通過しなかった事業者のフォローも必要である。

「つなぐチャレンジ」

■大久保委員長

市内中小企業の現状や、相談内容の傾向等について、情報提供いただきたい。

■中野委員

事業承継マッチング支援については、引き合わせ(マッチング)件数、成約件数ともに増加している。成約先の属性としては、小規模事業者や赤字の事業者も多い。日本政策金融公庫で

は、全国で事業承継に関するイベントも行っている。

■ 涌井委員

直近の雇用情勢については、2025年6月の有効求人倍率は、全国1.22倍、東京都1.70倍、町田市1.03倍である。完全失業率は2.5%。求人の業種は、サービス業、医療福祉、建設業が多い一方、求職の職種は、事務系、専門職、介護サービスが多く、ミスマッチが続いている。60歳以上の求職者が年々増えている。求職も多様化してきており、求人につなげられないこともある。

■ 佐藤委員

雇用保険の適用事業所数が増加しているのに対し、被保険者数が減っているのはなぜか。

■ 涌井委員

町田市内で雇用保険適用事業所数としては増えていても、実際に勤める従業員数は減っているということである。0.4%減という数字は誤差の範囲と認識している。

「ビジネスしやすく、働きやすいまちづくり」

■ 大久保委員長

市の情報発信の進捗状況はどうか。

■ 事務局

市のホームページの内容を見直し更新したほか、市ホームページのQRコードを名刺やチラシに入れ、職員一人一人が積極的に周知活動した。また、メール送信時の発信欄に市ホームページのURLを添付するなど工夫をした。2024年度のホームページの閲覧数の目標は、2023年度比110%を目指していたが、180%達成することができた。また、インスタグラムの町田市産業政策課公式アカウントを開設し、SNSでの情報発信を強化した。

秋から冬にかけて産業関連のイベントが多数ある。各種イベントを活用し、町田市の産業支援や事業者のチャレンジを周知PRしていく。

■ 杉森委員

インスタのフォロワー数はどのくらいか。

■ 事務局

181人である。

■ 大久保委員長

ホームページは見やすくなっているが、動画を入れ込むことはできるか。

■事務局

動画作成のスキル向上に取り組んでいきたい。

4 その他

■事務局

このメンバーでの委員会は最後になるので、各委員一言ずつ意見をいただきたい。

■多田委員

今後は、取り組みの選択と集中をどのようにしていくのが重要だと思う。支援する側の人数や時間が限られる中で、メリハリが必要だと感じている。

■小山委員

町田市として市内事業者を支援することで、市の税収がどのように増えるのか、事業者が市に対してどのような貢献ができるのか、そのような視点も持つておくことが必要である。また、10年間の産業振興計画の総括をまとめた資料が必要だと思う。

■事務局

「町田市産業振興計画19-28」の10年間の総括は、最終年度に向けてまとめていきたい。

■杉森委員

小田急沿線の自治体と話をする中では、町田市は起業支援に熱心であるという印象を持っている。交通の利便性を活かし、引き続き、産業振興を進めていくことが必要である。

■涌井委員

ハローワーク町田では、求人情報の提供だけでなく、ミニ面接会や求人コンサルなども行っている。ハローワーク町田の周知を図るため、「まちカフェ」や、「キラリ☆まちだ祭」等に出展し、市内事業者の人手確保につなげていきたい。

■中野委員

創業スクールを受講したにもかかわらず、創業していない方について何かできることがないか考えたい。

■太細委員

都市間競争の観点から、他市をベンチマークして、新たな取り組みを進める上では、他市の支援内容や成果などを参考にしながら、新たな取り組みを検討することも必要である。

■滝口委員

町田は人が多い。大学が多く、若い人も多い。人が集まるところにビジネスがある。全てが右肩上がりのビジネスを考えているわけではなく、小規模に自分のペースで事業を行いたい人がた

くさんいる。社会環境が変わってきており、人手不足や、物価高、DXなど、様々な目線で考えることが必要だと感じている。

■佐藤委員

実行計画の取り組みが多いため、選択と集中や、重点事業など、メリハリが必要であると感じている。

■大久保委員長

町田市は、イメージの良いまちに進化している。まだまだ発展する余地がある。

■事務局

各委員の委嘱期間は本年10月24日までです。委嘱期間中の委員会としては今回が最後だが、引き続き市内事業者支援に向けてご協力いただきたい。